

日本購入の米製トマホーク

四、爆前提の「飽和攻撃」想定

トマホーク・ブロッカ
(米レイセオン社動画から)

日本共同で運用

米国製の超距離巡航ミサイル・高

性能の国産ミサイル配備を
計画していますが、これら
は配備まで時間がかかるた
め、「試され済み」の兵器
としてトマホークを導入す
る計画です。

民間人巻き添え

トマホークはレーダーが
届きにくい低高度を飛行
し、精密誘導で特定の目標
をピンポイントで破壊でき
るとしています。しかし、
銃バージョンで、対地攻撃
に特化したものです。

トマホークは、1991年の海湾戦争以来、米英両軍が実戦で2500回以上使用。イラクやアフガニスタン、リビアなど、大多数は中東・アフリカでの先制攻撃で使用されており、代表的な敵基地攻撃兵器といえます。一面報道の、日本政府が取得を進めているのは「ブロックV」(5) = 第5世代の最新をピンポイントで破壊できるとしています。しかし、

専守防衛の範囲“外”

した。

09年には、米艦船がイエメンに非人道兵器であるクラスター(集束)弾を内包したトマホークを撃ち込み、子ども21人を含む民間人41人を殺害したことも明らかになっています。

誤爆や民間人の巻き添えが相次ぐのは、多数の弾頭を同時発射する「飽和攻撃」が運用の前提になつてゐるからです。とりわけ、トマホークの速度は民間旅客機並みのマッハ0・7程度のため、相手国から迎撃して、保有するイージス艦全てを破壊する。おそらく構造物も貫通し、多数の破片に分裂する。おそらくこれが殺傷兵器です。このよ

うな兵器を持つことが、なにかの可能性もあります。そのため、防衛省関係者も「飽和攻撃を想定している」と語っています。しかし、日本が保有する最新鋭のトマホークは堅固な構造物も貫通し、多数の破片に分裂する。おそらくこれが殺傷兵器です。このよ

うな兵器を持つことが、なぜ「専守防衛の範囲内」だと語れるのか。徹底批判が必要です。

(竹下田)